

平成 28 年 7 月 13 日（水）

第 21 回 職業能力開発研究会記録

研究会運営委員会

1. 開催日時、場所

日時：平成 28 年 7 月 13 日（水） 16:20～17:00
場所：職業能力開発総合大学校 3 号館 階段教室

2. 発表者、参加者数

発表者 菊池拓男 氏（職業大 情報通信ユニット（U25））
講演題目 黄綬褒章受章記念講演
「情報配線施工技能の標準化と技能五輪国際大会 6 連覇の軌跡」
参加者数 71 名

3. 配布資料

講演用パワーポイントのスライドのコピー

4. 職業大功労賞授与式

村越管理部長により、黄綬褒章の受章理由ならびに職業大功労賞の表彰理由について説明があった。圓川校長より、黄綬褒章を受章された菊池拓男准教授に職業大功労賞が授与された。

5. 開会挨拶

小野寺教授から開会の挨拶、本日の講演について紹介があった。

6. 講演概要

これまで職業訓練指導員として職業能力にどのように関わってきたかを、特に技能五輪国際大会での取り組みに絞って講演を行う。

■ 情報配線施工（Information Network Cabling）の重要性

ネットワーク障害の7割は、情報配線が原因である。情報配線施工の技能は、ネットワーク障害の7割の部分为解决しうるものである。

■ 職業大発

- ・ 職業訓練指導員として、「常に産業界の人材ニーズを捉えていきたい」、「シーズの段階でも捉え職業訓練指導員としてできることは何か」、また「能力開発セミナー・アビリティ訓練を効果的に有益なものするためにはどうしたらよいか」を考えてきた。
- ・ 本大学校研究室での工事が酷いものであった。その経験から情報配線施工の職業訓練プログラムを開発する必要性を強く感じた。
- ・ 職業大創業サポートセンターにて、2002年に人材育成・研究開発を行うコンソーシアムが設立された。現在では、情報配線施工をつかさどる団体が人材育成の業務を担っている。

■ ワンストップ・インストラクションの提案

- ・ 顧客に高品質なネットワーク環境を届けるためには、個別に行ってきた職務をワンストップで行うことが必要であることを提案した。
- ・ 当時、業界から批判を受けた。業界団体に足しげく通い、ワンストップ・インストラクションを提案し続けた。その結果、新たな職業能力評価制度の設立が実現した。

■ 技能検定・技能五輪職種の創設

- ・ 技能検定・技能五輪職種の創設には、客観的な評価基準、関係業界の賛同が必要である。
- ・ 業界に対して、公的な資格である技能検定は、技能・技術を評価するもので規制するものでなく、また、一般的な技能・技術を評価するものであり業務を制限するものでないことを説明し、理解を

得た。

- ・ 新たな技能検定の職種を創設するためには、提案者がすべて段取りをつける。総務省との省庁間協議の際に、職種名が問題となった。

■ 技能五輪国際大会

- ・ 技能五輪国際大会には、現在、約1,200名の選手、60カ国が参加している。
- ・ 技能検定は労働者に誇りをもってもらう制度であり、技能五輪は労働者に夢をもってもらう制度である。
- ・ WSC2005、WSC2007、WSC2009、WSC2011の情報ネットワーク施工職種で日本選手が4連覇を達成した。当時、諸外国では光配線が十分に普及しておらず、十分な参加国を確保できなかった。そのため、WSC2012には職種がなくなった。
- ・ 日本では、技能検定、技能五輪国内大会での実績があり、業界内の労働者に夢をもってもらうためには技能五輪国際大会の復活が必要であった。そこで、参加国を増やすために、各国に情報配線施工に関する職業訓練プログラム・パッケージ（カリキュラム、教材、機材、実際の職業訓練、選手育成など）を無償で提供した。その結果、職種として復活し、参加国数は増えている。
- ・ 競技の裏では、自国の職業訓練制度や技能向上のために、エキスパート内での主導権争いが行われている。

■ 日本の職業訓練プログラムを国際標準へ

- ・ 日本のネットワーク産業の海外進出や外国人の流入が進む中で、いかにグローバル人材を育成していくか、いかに職業訓練プログラムで技能・技術を担保していくかを業界全体で取り組んでいる。
- ・ 情報配線施工技能の国際標準化に向けて、テキスト・教材を作成し、各国に配布している。各国で自由に改編ができる。
- ・ 技能検定と技能五輪国際大会の採点基準を一致させることで、国際大会に参加できなかった者も誇りと夢がもてる。

■ NEXT10

- ・ 情報配線施工技能の標準を広め、全世界の方々にネットワークの一定以上の品質が届けられるよう技能者を育成していきたい。
- ・ 各国に、職業能力評価システムの移転をすすめていくことで、グローバルの人材の育成や技能者の技能レベルを担保することができる。
- ・ 業界の労働者が夢と誇りをもてるように、職業訓練指導員として何ができるか、を常に考え活動してきた。最高の品質のネットワーク環境を提供するために、職業訓練プログラムを発展させて技能者の育成に貢献していきたい。

7. 質疑応答

司会：小野寺教授

圓川校長：

Q. 技能五輪国際大会において、標準化に向けてイニシアティブをとっている職種はあるのか？

A. 製造系の職種が強いが、主導権をとるためにはスキルマネジメントチーム（管理チーム）のメンバーになることが必要である。ヨーロッパは標準化がうまく、現在ではヨーロッパにイニシアティブをとられている。

圓川校長：

Q. 技能五輪国際大会で勝つためには、マーケティングやコミュニケーションに関する教育も必要か？

A. ものを作るだけでなく、マーケティングスキルやコミュニケーションスキルに関する課題があるため、教育は必要である。

圓川校長：

Q. 今後、職業大として職業訓練指導員としてどのような対応をすべきか？

A. 企業の人材育成に関してはアウトソーシング化が進み、自らが技能者を育成しきれていない。本機構がもつカリキュラム・教材作成能力を活かし、業界が求めるカリキュラムや適切な教材を示していくことが重要である。

8. 次回研究会について

講演者及び日程は未定。

以上